

**CASBEE-広島 (2010年ver.1)**  
長久堂野村病院

用途等で評価が不要となる項目については、自動的に網掛けが入ります  
欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル CASBEE広島 2009年版  
■ベース評価ソフト: CASBEE-NCb\_2008(v.3.2)

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
<b>Q 建築物の環境品質</b>								<b>3.3</b>
<b>Q1 室内環境</b>			<b>0.40</b>					<b>3.5</b>
<b>1 音環境</b>		<b>3.0</b>	0.15	<b>3.0</b>	1.00			<b>3.0</b>
1.1 騒音		<b>3.0</b>	0.40	<b>3.0</b>	0.40			
1.1.1 暗騒音レベル		3.0	1.00	3.0	1.00			
1.1.2 設備騒音対策		-	-	-	-			
1.2 遮音		<b>3.0</b>	0.40	<b>3.0</b>	0.40			
1.2.1 開口部遮音性能		3.0	0.40	3.0	0.30			
1.2.2 界壁遮音性能		3.0	0.60	3.0	0.30			
1.2.3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	-	3.0	0.20			
1.2.4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	-	3.0	0.20			
1.3 吸音		<b>3.0</b>	0.20	<b>3.0</b>	0.20			
<b>2 温熱環境</b>		<b>3.1</b>	0.35	<b>3.0</b>	1.00			<b>3.1</b>
2.1 室温制御		<b>3.3</b>	0.50	<b>3.0</b>	0.50			
2.1.1 室温設定		3.0	0.38	3.0	0.57			
2.1.2 負荷変動・追従制御性		-	-	-	-			
2.1.3 外皮性能		3.0	0.25	3.0	0.43			
2.1.4 ゾーン別制御性	空調ゾーニングの細分化、系統によって冷暖フリー型HEPの採用	4.0	0.38	-	-			
2.1.5 温度・湿度制御		-	-	-	-			
2.1.6 個別制御		-	-	-	-			
2.1.7 時間外空調に対する配慮		-	-	-	-			
2.1.8 監視システム		-	-	-	-			
2.2 湿度制御		<b>3.0</b>	0.20	<b>3.0</b>	0.20			
2.3 空調方式		<b>3.0</b>	0.30	<b>3.0</b>	0.30			
<b>3 光・視環境</b>		<b>3.6</b>	0.25	<b>4.1</b>	1.00			<b>3.7</b>
3.1 昼光利用		<b>4.2</b>	0.30	<b>4.2</b>	0.30			
3.1.1 昼光率	共闘部は光庭より採光を考える。	5.0	0.60	5.0	0.60			
3.1.2 方位別開口		-	-	3.0	-			
3.1.3 昼光利用設備		3.0	0.40	3.0	0.40			
3.2 グレア対策		<b>4.0</b>	0.30	<b>4.0</b>	0.30			
3.2.1 照明器具のグレア		-	-	-	-			
3.2.2 昼光制御	外周部に庇を設置。室内にカーテン・ブラインドにより直接日射を遮蔽	4.0	1.00	4.0	1.00			
3.3 照度		<b>3.0</b>	0.15	<b>3.0</b>	0.15			
3.3.1 照度		3.0	1.00	3.0	1.00			
3.3.2 照度均斉度		-	-	-	-			
3.4 照明制御	ベッド毎にスイッチを設置	<b>3.0</b>	0.25	5.0	0.25			
<b>4 空気質環境</b>		<b>4.4</b>	0.25	<b>4.5</b>	1.00			<b>4.4</b>
4.1 発生源対策		<b>5.0</b>	0.50	<b>5.0</b>	0.63			
4.1.1 化学汚染物質	仕上・天井裏を規制対象外F☆☆☆☆とする。	5.0	1.00	5.0	1.00			
4.1.2 アスベスト対策		-	-	-	-			
4.1.3 ダニ・カビ等		-	-	-	-			
4.1.4 レジオネラ対策		-	-	-	-			
4.2 換気		<b>3.0</b>	0.30	<b>3.6</b>	0.38			
4.2.1 換気量		3.0	0.50	3.0	0.33			
4.2.2 自然換気性能		3.0	-	3.0	0.33			
4.2.3 取り入れ外気への配慮	給気面は汚染源から十分な離隔があり、排気面と異なる面かつ6m以上離隔	3.0	0.50	5.0	0.33			
4.2.4 給気計画		-	-	-	-			
4.3 運用管理		<b>5.0</b>	0.20	-	-			
4.3.1 CO <sub>2</sub> の監視		3.0	-	-	-			
4.3.2 喫煙の制御	病院内は禁煙として運営する。	5.0	1.00	-	-			
<b>Q2 サービス性能</b>		-	<b>0.30</b>	-	-			<b>3.1</b>
<b>1 機能性</b>		<b>2.2</b>	0.40	<b>2.8</b>	1.00			<b>2.3</b>
1.1 機能性・使いやすさ		<b>3.0</b>	0.60	<b>3.0</b>	0.60			
1.1.1 広さ・収納性		3.0	-	3.0	1.00			
1.1.2 高度情報通信設備対応		3.0	-	3.0	-			
1.1.3 バリアフリー計画		3.0	1.00	-	-			
1.2 心理性・快適性		<b>1.0</b>	0.40	<b>2.5</b>	0.40			
1.2.1 広さ感・景観	病室は天井高2.5mとして計画。	3.0	-	4.0	0.50			
1.2.2 リフレッシュスペース		3.0	-	-	-			
1.2.3 内装計画		1.0	1.00	1.0	0.50			
1.3 維持管理		-	-	-	-			
1.3.1 維持管理に配慮した設計		-	-	-	-			
1.3.2 維持管理用機能の確保		-	-	-	-			
<b>2 耐用性・信頼性</b>		<b>3.6</b>	0.31	-	-			<b>3.6</b>
2.1 耐震・免震		<b>3.8</b>	0.48	-	-			
2.1.1 耐震性	耐震性能1.3倍として計画。	4.0	0.80	-	-			
2.1.2 免震・制振性能		3.0	0.20	-	-			
2.2 部品・部材の耐用年数		<b>3.4</b>	0.33	-	-			
2.2.1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.23	-	-			
2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.23	-	-			
2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.09	-	-			
2.2.4 空調換気ダクトの更新必要間隔	厨房系統。多湿系統(浴室、中央材料等)にガルバリウムダクト採用	5.0	0.08	-	-			
2.2.5 空調・給排水配管の更新必要間隔	給水:塩ビライニング鋼管、排水:硬質塩化ビニル管、給湯:耐熱性塩ビライニング鋼管	5.0	0.15	-	-			
2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.23	-	-			

2.3 適切な更新			-	-	-	-	-
2.4 信頼性			3.8	0.19	-	-	-
1	空調・換気設備	機器類の防振吊、非常用発電機による空調稼働(部分的)	4.0	0.20	-	-	-
2	給排水・衛生設備	節水型大便器の採用、緊急用汚水槽の設置	4.0	0.20	-	-	-
3	電気設備	非常用発電機・無停電電源装置・屋上への電源設備設置。	5.0	0.20	-	-	-
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	-
5	通信・情報設備		3.0	0.20	-	-	-
3 対応性・更新性			3.9	0.29	3.5	1.00	3.8
3.1 空間のゆとり			4.6	0.31	4.0	0.50	
1	階高のゆとり	共用4.0m 病棟 3.8mとして計画。	5.0	0.60	4.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ	純ラーメン構造にて将来の変性を確保	4.0	0.40	4.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり		共用部を3,500N/m <sup>2</sup> にて計画。	4.0	0.31	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			3.4	0.38	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.17	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.17	-	-	
3	電気配線の更新性	壁内に配管を敷設し、仕上材を傷めずに配線更新可能。	5.0	0.11	-	-	
4	通信配線の更新性	壁内に配管を敷設し、仕上材を傷めずに配線更新可能。	5.0	0.11	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.22	-	-	
6	バックアップスペース		3.0	0.22	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	3.1
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮		国道東側に大きな緑地を計画し、街並みの潤いに寄与。	4.0	0.40	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30	-	-	3.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	2.7
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	2.8
1 建物の熱負荷抑制			3.0	0.30	-	-	3.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.20	-	-	3.0
2.1	自然エネルギーの直接利用		3.0	0.50	-	-	
2.2	自然エネルギーの変換利用		3.0	0.50	-	-	
3 設備システムの高効率化		ERR=-5	2.5	0.30	-	-	2.5
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	2.7
1 水資源保護			3.4	0.15	-	-	3.4
1.1	節水	節水型大便器、自動水栓の採用	4.0	0.40	-	-	
1.2	雨水利用・雑排水再利用		3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.67	-	-	
2	雑排水再利システム導入の有無		3.0	0.33	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			2.4	0.63	-	-	2.4
2.1	材料使用量の削減		2.0	0.07	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.24	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20	-	-	
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	-	1.0	0.20	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		2.0	0.05	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み		3.0	0.24	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.22	-	-	3.0
3.1	有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.32	-	-	
3.2	フロン・ハロンの回避		3.0	0.68	-	-	
1	消火剤		3.0	0.33	-	-	
2	断熱材		3.0	0.33	-	-	
3	冷媒		3.0	0.33	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	2.5
1 地球温暖化への配慮			2.6	0.33	-	-	2.6
2 地域環境への配慮			2.4	0.33	-	-	2.4
2.1	大気汚染防止		3.0	0.25	-	-	
2.2	温熱環境悪化の改善		2.0	0.50	-	-	
2.3	地域インフラへの負荷抑制		2.7	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	2方向から敷地内に進入可能とし、主要な出入り口はIN・OUTを設ける。	4.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		1.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			2.7	0.33	-	-	2.7
3.1	騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	0.33	-	-	
2	振動		3.0	0.33	-	-	
3	悪臭		3.0	0.33	-	-	
3.2	風害、日照阻害の抑制		2.3	0.40	-	-	
1	風害の抑制		2.0	0.70	-	-	
2	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3	光害の抑制		3.0	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	